

青年県外 派遣研修

体験記

岩室村では、昭和48年から3年間、青年の県外派遣研修事業が実施されてきました。

今年、8年ぶりに第4回目の「青年県外派遣研修」が6月13日から3泊4日の日程で行われました。

今回の派遣団員は5人（男子3人、女子2人）で、群馬県内の各地の青年団体と交流し、「青年団体活動のあり方と団体活動の活性化」という共通研究テーマにそって有意義な研修が行われました。

この研修で得た貴重な体験をもとに今後、岩室村の青年団体活動を実践していくことが期待されます。

今回参加されたみなさんに体験記を書いていただきましたので、ご紹介します。

派遣団員

- 団長 樋口 郁華さん（和3）
- 副団長 伊藤 隆行さん（和3）
- 記録係 伊藤 百合子さん（和1）
- 研修係 田島 静夫さん（石瀬）
- 生活係 小池 元子さん（石瀬）

県外研修ということで群馬県に行ってきたが、いろいろな意味で勉強になりました。

主旨は「青年団活動について」ということでしたが、残念ながらその主旨とするとところは、なるほど頭のなかにおきました。果たして僕たちには意義あるものか疑問もありました。しかし、群馬県の青年との交歓会で、その点についてうらやましく思ったことも事実です。

そして、社会構造の変化した中で農村社会のあり方、青年のあり方、あるいはその中で自分のあり方、つまり自己、自村の発見には大いに役立ちたいと思います。

山に囲まれ、谷川のせせらぎとカウコウの声を聞きながら過ごした四日間、楽しい思い出とともに僕にいろいろ



▶ 片品村での体験学習——白菜の稚苗植え。



◀ りんごの摘果の手伝いも……



樋口 郁華さん
〔和3・24歳〕

自己と 自村の発見

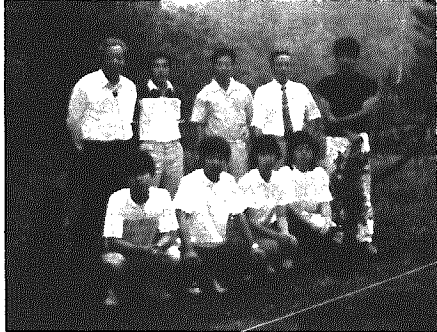
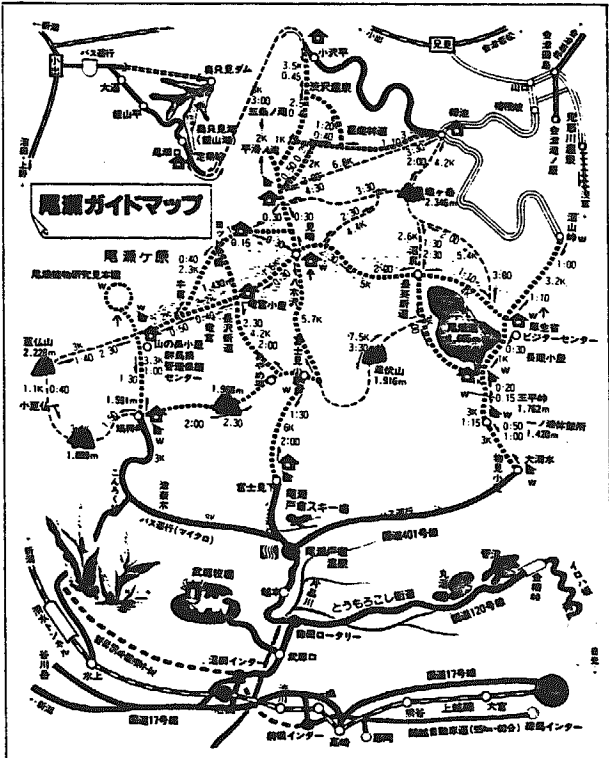
ろな体験をさせてくれました。緊張したり、圧倒されたり大変でしたが、若者のエネルギーを身体で感じる事ができ、充実した研修であったと思います。

長いようで短い研修でしたが、短いようで長いこれらの人生に何かしら役立つことと思います。

さらに、いろんな人たちに御世話になり、また親切にいただいたことは忘れられません。

仕事があるにもかかわらず、僕たちのために仕事をさいて見学に付き合ってもらったり、次の宿泊地まで送ってもらったりなど、移動のたびに車で送迎してもらい、うれしいというより驚いてしまいました。

僕たちに、それだけの意味があるのだらうかと、ふと考えさせられました。この研修で出会った多くの人たちに感謝しています。来年もまた岩室村青年県外研修が行われることを願っています。



◀ 群馬県立北手青年の家にて新潟県花 雪標の植樹後、角田所長（上段左端）、青山事務長（上段右から二人目）、田村先生（上段・中央）と記念撮影。



▶ 伊香保町、「親の森研修館」前にて右から小池さん、沖野社会教育主宰、伊藤君、樋口君、伊藤さん、田島君。

動の活性化」など、青年団とは何か、どうあるべきかなどは、ふだん縁がなく、なるべく関わりたくない問題でした。

何事にも 自信をもって……

伊藤百合子さん
〔和1・23歳〕



月夜野町青年団との交歓会では、驚きと感激で、非常に勉強になりましたが、そっくりそのまま岩室村の青年に当てはめて考えるには、問題もありむずかしいと思います。

県民性の違いや生まれ育った環境の違いなど参考にしても真似するには、考えるべき点も多くあるはずだと思います。

とにかく、何事にも自信を持ち、意欲的に挑戦していくべきだと痛感しました。三泊四日の研修で、初めて見て、聞いて体験したことは、どれ一つをとってみても無駄にならず、これからの自分にプラスとなり、助けとなることと思います。

最後に、お世話になった群馬の皆さんに、いつの日かまた、会いに行きお礼を言いたいと思っています。

私が「岩室村青年県外派遣」に参加したのは、簡単に言えば欠員補充……思ったからでした。

今までは横だけのつながりで十年前と何の変化もなく、それに満足していた半面、いつも新しい行動域を求めてはいても、機会がないままに終わっていました。

さて、研修期間に感じたことは、私も若く、同年代の人が農業について、目を輝かせ、自信と誇りを持って話す片品村農志会の皆さんとの交歓会は、楽しく勉強になりました。ただ事前勉強を怠ったせいか、農家に生まれ育ちながら、我家の田んぼの耕作面積も農作業のことについても何一つとして満足に答えることができず、はずかしい思いをしました。

研修会の主旨は、「青年としてのあり方、団体活動の存在と再認識、青年団活